

(⇒左側からの続きです)

2か月たってもAからの連絡はない。しびれを切らして(シビレヲキラス：待ち遠しくてガマンできなくなる)電話したら、もう少し待ってくれということだった。3か月目もそうだった。4か月目には、電話が通じなくなった。おかしいと思って、Aのアパートを訪ねたら、3日前に引っ越した後だった。引っ越し先は田舎のAの家になっていた。電話をして確かめたところ親もどこにいるかわからないと言っていた。ぼくのお金はおもりそうもない。やつがどこかで、10万円もうけた、もうけた、と言っていると思うと、無性に(ムショウニ：むやみに、やたらに)腹が立った。大家さんに待ってもらっているアパート代を払うために、ぼくは専門学校を20日間ほど休んでアルバイトをした。

高校を卒業して2年後の正月、郷里(キョウリ：ふるさと。いなか)でクラス会があった。30人ほどが集まった。担任の先生も来ていた。女子はものすごくきれいになっていた。男子も高校を卒業して2年もたつと、なんとか格好がつくもんだ。見た目は立派なおとなになっていた。ぼくもなんとか専門学校を卒業した形になっていた。東京のブティックに就職することになっていた。ひさしぶりの再会で、しかも正月だったので、はなやいで楽しかった。

クラス会の時、Aの話が出た。ぼくのほかに10人ちかくからお金をかりたまま、返さないでいた。このときは、全員で憤慨(フンガイ：腹をたてること)した。なかには、親にもんくを言いに行った者もいたらしいが、「20歳をすぎれば親の責任じゃない」と言われたそうだ。ぼくらの話を聞いていた先生も、Aにお金をかしたということだった。このことを聞いた時は、全員おこることを忘れてあきれてしまった。サボってばかりで出席日数が足りないAのために、担任の先生がいろいろをお願いをしたり学校にがんばってくれたおかげで卒業できたのに、その先生まで裏切るなんて…。Aの話が出た後は、クラス会も暗くなってしまった。

そのクラス会から5年がたった。高校を卒業してから7年。Aは一度も郷里に帰ってきていない。親もどこにいるかまったくわからないらしい。誰もAの話をする者はいなくなった。友達をなくし、ふるさとにも帰れなくなってしまったA。それでも、どこかで、やっぱり「もうけた、もうけた」と言っているんだろうか。

「もうけた君」を読んだ、みなさんの感想はどうですか？「もうけた君」は本当にもうけていると思いますか？実は、友達の信頼を失い、本来であれば伸びていくはずの能力も無駄にし、損をしているのだと思いますよ。正直なところ、「もうけた君」のような気持ちは、ほんの少しかもしれません。人間であれば誰でも心の中にかかえているのだと思います。楽をしたい、もうけたいというのは人間の自然な感情なのかもしれません。でも、サボルことでもうけたり、楽をしたりすれば、必ずその報い(ムクイ：何かをしたことの結果としての自分に返ってくる)があるのだと思います。私は、「中学生というのは、大人になった時のシュミレーションをする時期」と考えています。失敗したとしても、それを将来の糧(カテ：活動力とものとなるようなもの)とすればいいのです。そのような時に、ごまかすことを覚えたり、適当なことをやっていたら、必ず将来的に自身にとってマイナスとなって戻ってくるのです。私は、大人になるかどうか(なれるかどうか)というのは、自分の心の中にいる「もうけた君」を、どれだけ抑えられるかにかかっていると思います。私は、この1学期間、小中野中学校のみなさんを見ていて、「真のもうけた君」はいないと思っています。もし、「もうけた君」のような心の芽があったとしても、夏休みもこれからも強い心でその芽を抑え、自らの成長につなげてください。(最後まで読んでいただきありがとうございました。)

#### 【きょうのひとり言】

●吹奏楽部が、土曜日の地区大会で金賞を獲得し、今月29日の県大会に出場することになりました。大勢の方が応援に来てくれたようです。私も聴きに行きましたが、爽やかな“コナチュウサウンド”を公会堂に響かせてくれました。最高うれしかったです！おめでとう、吹奏楽部。

●今日の私の似顔絵は、美術部2年生の青木優果さんに描いてもらいました。優果さんの夏休みの計画は、早めに宿題を終わらせて、後半はプールや海へ行くことだそうです。「苦あれば楽あり」が「もうけた君」にならない秘訣(ヒケツ：奥の手)かもしれませんね。